株式会社大和証券グループ本社 (2018 年グリーンボンド)

契約の種類： アニュアルレビュー
日付： 2022 年 11 月 14 日
担当者：
Shigeru Ogawa, shigeru.ogawa@sustainalytics.com, (+81) 3 4520 2193
Kosuke Kanematsu, kosuke.kanematsu@sustainalytics.com, (+81) 3 4571 2277

はじめに

2018 年 11 月、株式会社大和証券グループ本社（以下、「大和証券グループ本社」）は、再生可能エネルギー及びグリーンビルディングに関連するプロジェクトへのファイナンスを目的とするグリーンボンドを発行しました（5 年債 100 億円、以下「2018 年グリーンボンド」）。その調達資金は、2022 年 6 月 30 日時点で 4 件の再生可能エネルギープロジェクト及び 1 件のグリーンビルディングプロジェクトに充当されています。2022 年 11 月、大和証券グループ本社は、2018 年グリーンボンドを通して資金の充当を受けたプロジェクトが大和証券グループ本社グリーンボンドフレームワーク（以下、「フレームワーク」）[1] で設定された資金使途のクライテリアやレポーティングの指標に合致しているかについての評価を、サステイナリティクスに委託しました。本レビューは、2021 年 11 月に行ったサステイナリティクスによる大和証券グループ本社の 2018 年グリーンボンドに対するレビューに続く、4 回目のレビューとなります[2]。

評価基準

サステイナリティクスは、以下の要件について、2022 年 6 月 30 日時点で調達資金の充当を受けていたプロジェクトを評価しました。

1. フレームワークで設定された調達資金の使途及び適格クライテリアとの適合
2. フレームワークで設定された各資金使途クライテリアに対するインパクト指標に関する報告

充当を受けた調達資金の使途のカテゴリーに対する適格クライテリア及び関連するインパクト指標を表 1 に示します。

表 1：調達資金の使途、適格クライテリア及びインパクト指標

調達資金の使途	適格クライテリア	インパクト指標
再生可能エネルギー	再生可能エネルギー発電プロジェクトに対し、大和エナジー・インフラ株式会社（以下「DEI」と言います）を通じて実施する投融資であって、以下のクライテリアに適合するもの。 • 再生可能エネルギー発電プロジェクト（関係会社が実施するプロジェクトを含む）の開発、建設、運営に関連する支出。適格プロジェクトは、太陽光発電、風力発電、地熱発電、水力発電（発電容量が20MWを超える大型のものを除	• 適格グリーンプロジェクトによって削減される CO2 排出量（理論値） • 適格グリーンプロジェクトの発電量（出力規格に基づく理論値）

[1] 大和証券グループ本社グリーンボンドフレームワークの概要は、サステイナリティクスのセカンドパーティ・オピニオン内でご覧頂けます：https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/daiwa-securitities-group_green-bond-framework-overview-_spo_japanese_final.pdf?sfvrsn=c71f5c8d_3
[2] サステイナリティクスによる大和証券グループ本社のグリーンボンドの過去のアニュアルレビューは以下よりご覧頂けます：
アニュアルレビュー（2019 年 11 月）：https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/daiwa-securities-group-green-bond-annual-review-22112019-japanese.pdf?sfvrsn=a1ef3720_3
アニュアルレビュー（2020 年 11 月）：https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/daiwa-securitities-group-green-bond-annual-review-japanese.pdf?sfvrsn=9f192680_3
アニュアルレビュー（2021 年 11 月）：https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/daiwa-securities-group-green-bond-2018-annual-review-(2021)-japanese.pdf?sfvrsn=668906db_1

© Sustainalytics 2022

	く）、バイオマス発電（廃棄物由来のバイオマス資源）であること。 • リファイナンスの場合、グリーンボンド発行日から遡って24カ月以内に資金が充当されたプロジェクトであること。 **充当の流れ** 再生可能エネルギー発電プロジェクト 1 件ごとに特別目的会社（SPV）を設立し、DEI が各SPV に投資又は融資を行います。資金の使途は、上記の再生可能エネルギー関連の支出に限られます。	
グリーンビルディング	大和証券グループ本社もしくは大和プロパティ株式会社[3]又はその両方が実施するグリーンビルディングの建設や、既存の建造物をグリーンビルディングに転換するための改修に関わる支出。グリーンビルディングとは、以下のクライテリアに適合した建造物とします。 • グリーンボンドの発行日から遡って24カ月以内に、信頼できる第三者機関の認証において、上位 3 段階までの認証を取得している建築物、もしくは発行日以降に当該認証を取得すると見込まれる建築物、又はその両方に該当する建築物。 – DBJ Green Building 認証の 3 つ星、4 つ星、5 つ星 – CASBEE の B+ランク、A ランク、S ランク	• 建設中は、不動産認証申請の進捗状況 • 竣工後は、以下の環境影響指標 – エネルギー使用量（J/kl） – 用途別エネルギー使用量（%） – CO2 排出量（t） – 水使用量（㎥） – 廃棄物発生量（kg） – リサイクル率（%） – 認証のレベル

発行体の責任

大和証券グループ本社は、プロジェクトの概要説明、充当額、プロジェクトによるインパクトを含め、調達資金の充当を受けたプロジェクトの詳細に関する正確な情報及び文書を提供する責任を負います。

独立性と品質管理

投資家に ESG とコーポレート・ガバナンスに関する調査・格付けを提供するプロバイダとして業界を牽引するサステイナリティクスは、大和証券グループ本社の 2018 年グリーンボンドによる調達資金の使途を検証しました。本契約の一環として、同社のフレームワークとの適合性の確認のため、大和証券グループ本社の従業員からの文書の収集及び確認を行いました。

サステイナリティクスは、調査にあたって、適格カテゴリー内の対象プロジェクトに関して大和証券グループ本社から提示された情報と事実に依拠しています。大和証券グループ本社が不正確又は不完全なデータを提供したことにより、本文書で示した見解、調査結果、結論が正確性を欠く場合、サステイナリティクスはいかなる責任も負いません。

サステイナリティクスは、評価プロセスにおいて最高の品質と厳密さを確保するためにあらゆる努力をし、審査結果の評価にあたっては社内のサステナビリティ・ボンド・レビュー委員会（Sustainability Bonds Review Committee）が監督を行いました。

[3] 大和プロパティ株式会社は、吸収合併に伴って 2020 年 10 月 1 日付で消滅しています。

結論

限定的保証プロセスに基づき検討した結果[4]、すべての重要な側面において、株式会社大和証券グループ本社の 2018 年グリーンボンドによる調達資金の充当を受けたプロジェクトが、大和証券グループ本社グリーンボンドフレームワークで規定された資金使途及びレポーティングクライテリアに適合しないと判断すべき事実は認められませんでした。大和証券グループ本社はサステイナリティクスに対し、2018 年グリーンボンドの調達資金が 2021 年 11 月時点で全額充当されていたことを開示したものの、調達資金の充当対象に更新があった為、2022 年 11 月に再度レビューを行いました。大和証券グループ本社は、サステイナリティクスに対し、2018 年グリーンボンドの調達資金がフレームワークの適格クライテリアに沿って、4 件の再生可能エネルギープロジェクト及び 1 件のグリーンビルディングプロジェクトに再充当され、2022 年 6 月 30 日時点で再度全額充当されていたことを確認しています。

[4] サステイナリティクスの限定保証プロセスには、発行体の提供する、調達資金の充当を受けているプロジェクトの詳細に関する文書（プロジェクトの説明、充当額、プロジェクトによるインパクトなど）の調査が含まれます。発行体には正確な情報を提供する責任があります。サステイナリティクスはプロジェクトの現地調査は実施していません。

調査結果の詳細

表 2：調査結果の詳細

評価基準	調査手順	調査結果	特定された過失または例外
資金使途クライテリア	2022 年 6 月 30 日時点で、2018 年グリーンボンドの調達資金が充当されていたプロジェクトを対象に、フレームワーク及び上の表 1 に示されている資金使途クライテリアとの適合性を検証。	審査したすべてのプロジェクトは資金使途クライテリアに適合していました。	該当なし
レポーティングクライテリア	2022 年 6 月 30 日時点で、2018 年グリーンボンドの調達資金が充当されていたプロジェクトを対象に、プロジェクトによるインパクトがフレームワーク及び上の表 1 に示されているインパクト指標と適合する形で報告されたかを検証。	審査したすべてのプロジェクトにおいて、フレームワークで設定された各資金使途クライテリアに対するインパクト指標が報告されていました。	該当なし なお、グリーンビルディングプロジェクトについては、（エネルギー消費量等の）6 つの環境インパクト指標についても報告されることになっています。しかし、2021 年 6 月 30 日に竣工している当該物件は、実績値がない為、報告がなされていません。これら実績値は、会計年度である 4 月から翌 3 月までの期間で集計されるものですが、当該物件は、会計年度通年で稼働したことがまだありません。

参考資料

参考資料１：インパクトレポーティング[5]とグリーンボンド調達資金の充当状況

1. インパクトレポーティング

再生可能エネルギー

プロジェクトカテゴリー	サブカテゴリー	プロジェクト数	インパクト指標		融資残高（億円）
			発電量/想定発電量（MWh）	推定 CO_2 削減排出量（tCO_2）	
再生可能エネルギー	太陽光力	4	110,940	49,590	80
合計		4	110,940	49,590	80

グリーンビルディング

プロジェクトカテゴリー	物件数	インパクト指標	融資残高（億円）
グリーンビルディング	1	DBJ グリーンビルディング認証（5 つ星）取得	20

2. グリーンボンドによる調達資金の充当状況

項目	金額（億円）
グリーンボンド発行による調達資金の手取り金合計：	100
融資残高合計（再生可能エネルギー＋グリーンビルディング）：	100
調達資金の未充当額合計：	0

[5] 大和証券グループ本社によるインパクトレポーティングは、こちらよりご覧頂けます: https://www.daiwa-grp.jp/sdgs/business/green_bond.html

免責事項

© Sustainalytics 2022 無断複写・複製・転載を禁ず

本書に包含又は反映されている情報、手法及び意見は、サステイナリティクス及び／又はその第三者供給者の所有物（以下、「第三者データ」）であり、サステイナリティクスが開示した形式及びフォーマットによる場合又は適切な引用及び表示が確保される場合のみ第三者へ提供されます。これらは、情報提供のみを目的として提供されており、（1）製品又はプロジェクトの保証となるものではなく、（2）投資助言、財務助言又は目論見書となるものではなく、（3）有価証券の売買、プロジェクトの選択又は何らかの種類の商取引の実施の提案又は表示と解釈してはならず、（4）発行体の財務業績、金融債務又は信用力の評価を表明するものではなく、（5）いかなる募集開示にも組み込まれておらず、組み込んではなりません。

これらは、発行体から提供された情報に基づいたものですので、これらの商品性、完全性、正確性、最新性又は特定目的適合性は保証されていません。情報及びデータは、現状有姿にて提供されており、それらの作成及び公表日時点のサステイナリティクスの意見を反映しています。サステイナリティクスは、法律に明示的に要求されている場合を除き、いかなる方法であっても、本書に含まれた情報、データ又は意見の使用に起因する損害について一切責任を負いません。第三者の名称又は第三者データへの言及は、かかる第三者に所有権があることを適切に表示するためのものであり、その後援又は推奨を意味するものではありません。当社の第三者データ提供者のリスト及びこれら各者の利用規約は、当社のウェブサイトに掲載されています。詳しくは、http://www.sustainalytics.com/legal-disclaimers をご参照ください。

発行体は、自らが確約した内容の確実な遵守とその証明、履行及び監視について全責任を負います。

英語版と翻訳版との間に矛盾もしくは不一致が生じた場合は英語版が優先されるものとします。

サステイナリティクス（モーニングスター・カンパニー）

サステイナリティクスは、モーニングスター・カンパニーであり、環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査、評価及び分析を行う独立系機関であり、責任投資（RI）戦略の策定と実施について世界中の投資家をサポートしています。30 年以上の間、グローバルな投資家の進化するニーズに応える高品質かつ先進的なソリューションを提供し続けています。その上で、ESG 及びコーポレート・ガバナンスに関する情報及び評価を投資プロセスに組み込んでいる、数百に及ぶ世界の主要な資産運用会社や年金基金を支援しています。また、サステイナリティクスは、数百に及ぶ企業や金融仲介業者と協働してサステナビリティに関連する方針、実務、資金調達の検討を支援しています。サステイナリティクスは、世界 17 カ所にオフィスを構え、40 以上の産業グループにまたがる様々な分野の専門知識を持つ 500 人以上のアナリストを含む、1500 人以上のスタッフを擁しています。

詳しくは、www.sustainalytics.com をご参照ください。

又は、contact@sustainalytics.com にご連絡ください。